



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

しらこぼと

2011.7

No. 327

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



たまには、お泊まり探鳥会！

山部直喜(三郷市)

日本野鳥の会埼玉では一泊の遠出探鳥会も実施しています。参加される方は様々で、ベテランから入会間もない方、時には元気な80歳代の方もいらっしゃいます。いつもの探鳥会よりたくさんの方に、そして見たい鳥にもきっと会えます。体調を整え、ぜひ参加してみてください。

● 近年の一泊探鳥会

ここ1、2年では、次のような探鳥会が実施されています。

4月末～5月にかけて

◇東京都・三宅島探鳥会

交通：定期船、島内は路線バス。

定員：20名弱。

期待：アカコッコなどバードアイランドならではの多彩な鳥。温泉コースも用意。復路の船上からの海鳥観察。



◇長野県・戸隠高原探鳥会

交通：長野駅集合後は宿泊旅館のバスを利用。

定員：30名程度

期待：キビタキ、オオルリ、コルリ、クロツグミなど、時にはアカショウビン。ニリンソウ、カタクリ、ミズバショウも。



9月

◇長野県・白樺峠、乗鞍(畳平)探鳥会

交通：集合地より往復とも貸切バスを利用。

定員：20名程度。

期待：白樺峠では湧出するように飛翔するサンバヤハチクマなどの渡り、乗鞍ではライチョウ、ホシガラスなどの高山の鳥。



10月末～11月にかけて

◇長野県・戸隠高原探鳥会

交通、定員：(春に同じ)

期待：ムギマキ、マミチャジナイの可能性が大。秋の味覚。雨天時には近くの温泉へ。

◇宮城県・伊豆沼蕪栗沼探鳥会

交通：東北新幹線、現地では貸切バス。

定員：20名強。

期待：夕暮時の空を覆い尽くすようなマガンのねぐら入り、そして暁のねぐら立ちは何度見ても感激もの。

1月末

◇茨城県・平潟港探鳥会

交通：集合地より貸切バス。

定員：30名程度

期待：アビ類、クロガモやコオリガモなどのカモたちと各種のカモメ類。宿のアンコウ鍋と温泉。

● お泊まり探鳥会は要予約です

『しらこぼと』の行事案内欄に、だいたい2ヶ月前に紹介されます。往復葉書など指定の方法で申し込みます。各探鳥会毎に指定日以降の消印有効、先着順受付、当然当会員優先です。

また、これらお泊まり探鳥会も、企画立案、宿泊先やバス会社との交渉等、全て担当リーダーが行っています。従って、どの探鳥会も「たくさんの鳥を見せてあげたい」「めずらしいあの鳥を見てもらいたい」という心遣いにあふれています。

参加費も優しくしたいので、「個室の用意はできない」「宿泊は男女別の相部屋」「風呂も男女で時間交代の場合もある」等もご理解ください。



● 参加者の声から Q&A

Q: 参加したわけ、期待すること、楽しいこと

A: 「自分の楽しみを持ちたいから」

「仕事を終えたから（退職）」

「時には家事を離れたい」

「同じ趣味の方と知り合いになりたい」

「命の洗濯」

「次の仕事のエネルギー」

「憧れの鳥に会いたい」

「鳥をじっくり見たい」

「たくさんの鳥を見たい」

「普段見られない鳥を見たい」

「鳥のことをたくさん知りたい」

「友達のを広げたい」

「探鳥地を知りたい」

「どんな鳥がどこに出ているかを知りたい」

「次に行くときの情報収集」

Q: 参加してみて

A: 「皆さんとの交流は実に楽しい」

「参加者はベテランばかりと思っていたけれど、初めて参加の方や、入会間もない方もいて気が楽になった」

「リーダーの方は、参加者のためにこの雨の中でも望遠鏡を持参し、見せてくれる、本当にありがたい」

「ぜひ、また参加します」

● 楽しい探鳥会にするために

【準備】 観察用具は少なめに。双眼鏡は必需品ですが、望遠鏡はリーダーに見せてもらう（特に女性は）のも一つの方法です。服装

や靴は、ハイキングや軽登山程度。カップは防寒具にもなります。

観察用具や
弁当・水筒・

雨具だけを持って観察するときも多いので、それらを入れるナップザックがあると便利です。

【集合したら】 人数確認や受付の際、リーダーにさりげなく「入会して間もないんです」

「今日が初めての参加です」「キビタキを見たことがないんです」

「赤や青や黄色の鳥が見たいんです」な

どのアピールをしておきましょう。

【夕食時】 「さいたま市の浦和太郎です」程度の自己紹介があります。その際、リーダーにアピールしたことを今度は参加者全員にアピールしましょう。必ず「その鳥はあの探鳥会に参加するといいいよ」「猛禽はAさんが詳しいよ」などなどの声が必ずかかります。

さて、まずは9月のお泊まり探鳥会から応募してみたいかがでしょう。新しいBWライフが始まりますよ。 (写真・編集部)



2011年春 シギ・チドリ類調査報告

日本野鳥の会埼玉研究部

日 時：2011年4月29日 9:30~11:30
場 所：さいたま市 大久保農耕地
天 候：晴

日本付近は南海上に中心を持つ高気圧に覆われ、関東地方も晴れました。連休にもかかわらず、21名のご協力が得られました。ありがとうございました。

観察された種数、個体数は6種21羽で、昨年の春と比較すると種数で2種、個体数で10羽多くなりました。これは、昨年に比べるとチュウシャクシギが8羽観察されたことが大きな原因です。また、ケリが9年ぶりに、チュウジシギが初めて確認されたことも特徴です。

4月が天候不順だったためか、いつもならほとんどの田んぼに水が入っており、田植えも盛んに行っている時季ですが、今年はあまり水が入っていませんでした。そのためかシギ・チドリ類があまり観察されませんでした。

表は今までの春の調査結果をまとめたものです。昨年も4月が天候不順だったため、シギ・チドリ類が少なかったことが分かります。

ちなみに調査地対岸の水の入っていた田んぼには、この時季に100羽以上のムナグロが観察されたそうです。

※表の中の「タシギ属不明種」と「シギ科不明種」は、種数には入れていません。

(石井 智)

春のカウント結果 (大久保農耕地)

年	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
調 査 日	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29
天 候	晴れ	雨	晴れ	曇り	雨	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	快晴	快晴	曇り	晴れ	曇り	晴れ	晴れ	快晴	快晴	曇り	快晴	晴れ	快晴	晴れ	晴れ
1 タマシギ				2																					
2 コチドリ	5	1	2	1	1	4			7	1		1	2	5	2	6	9	4	4	2	6	3	7	4	3
3 シロチドリ				1																					
4 ムナグロ	400	444	488	624	474	386	381	277	127	534	178	143	130	115	304	153	190	413	3	444	283	98	337	5	7
5 ケリ																1									1
6 キョウジョシギ	3	7	2	2				2	1			2	4		2	1		1		3					
7 トウネン				1																					
8 ウズラシギ	2		2		1	1																			
9 ハマシギ	2		10	30			24	1		9															
10 アオアシシギ			4		2	1	7	3					7								2	1			
11 タカブシギ	50	52	69	16	4	6	6	13	25	5			1	5	2	1	1	6					4		1
12 キアシシギ	2			3								2	1					2		1	3				
13 イソシギ	2		1									1				1									
14 オグロシギ				1																					
15 チュウシャクシギ	12	6	7	8	3	1	13	12	11	3	10	2	5	11	4	2	3	6	3	5	6	2	13		8
16 コシヤクシギ				1																					
17 タシギ	14	30	39	11	43	36	21	10	26	12	3	6	3	3		1	2		13	3	8	8	2	1	
18 チュウジシギ																									1
19 オオジシギ															1	1									
タシギ属不明種	1	1				3	2	1	2			1												1	
20 アカエビシギ		1																							
シギ科不明種						5																			
合 計	493	542	624	701	528	443	454	319	199	564	191	158	153	139	315	166	206	432	23	460	304	114	363	11	21



野鳥情報

深谷市本田白鳥飛来地 ◇3月6日、アトリ4羽、今季は少なめ（鈴木敬）。

蓮田市蓮田 ◇3月8日朝、ビニールハウス付近と堆肥にルリビタキ♂、庭にメジロ、ツグミなど。3月15日、ルリビタキ♂1羽、真っ青な奴がまだ庭にいてくれる。オナガ10羽+がにぎやか（本多己秀）。

さいたま市桜区大久保農耕地 ◇3月8日、B区でタゲリ60羽+。アシ原の中をクイナが歩き回って採餌中（鈴木紀雄）。◇3月24日、B区でクイナ2羽（海老原美夫）。

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇3月8日、オオタカ若鳥1羽がカラスに追われ飛び去る。アリスイは声だけ。3月25日、2カ所からアリスイの声（鈴木紀雄）。

さいたま市緑区上野田 ◇3月9日、道沿いの小さな流れをチェックしたらタマシギ♂1羽を発見。1月21日、22日に見たのと同個体なのだろうか（鈴木紀雄）。

羽生市羽生水郷公園 ◇3月9日、公園に着くなりマヒワ15羽+が出迎え、帰途には50羽になって見送ってくれた。アオサギ3羽、冠羽が長く綺麗。オオバンが2声3声鳴いて潜った。コガモ2羽の♂が大喧嘩。数えてみたら♂9羽に♀5羽。ヨシガモ♂2羽と♀2羽が気持ち良さそうに日向ぼっこ。オオタカの若が水辺のヤナギで周囲を睥睨。ハシブトガラス2羽が上の枝にとまって勇気を誇示。オオタカは我関せずで知らん振り。根元でムクドリとキジバトが何も無いかのように採餌、ヒバリが空高くさえずっていた。午前11時45分頃、大きな地震。カルガモとコガモ夫々10数羽ずつが羽音をたてて飛び上がり、上空を鳴きながら旋回。他にアリスイ、モズ、ジョウビタキ、ツグミ、ホオジロ、カシラダカなど（長嶋宏之）。

久喜市菖蒲町小林 北緯36.0689° 東経139.5716° ◇3月9日、電線にいたカワラヒワ50羽士が一斉に飛んだ後、ニューナイスズメ7羽が残っていた。ケヤキの木で200羽士のニューナイスズメが騒がしかつ

た（長嶋宏之）。

上尾市瓦葺 ◇3月11日、遊水池で鳥見中、大地震に遭遇。水面が波立ち、アシがワッサワッサ揺れ、カルガモ、コガモ、サギらが驚いて飛び上がって上空をグルグル回っている。タシギは飛び去った。バンはアシの中にもぐったまま出てこなかった（鈴木紀雄）。

蓮田市黒浜 北緯36.004° 東経139.6611°

◇3月11日、キリの木の枝に造った巣の中でハシボソガラスが座ってモゾモゾしていた。つがいの一方は近くにいたが、直ぐ畑に降りた。続いて巣の中のカラスも畑に降りた。巣はキリの小枝と針金ハンガー数本でできていた。このつがいは、今年はこの雛を育てる気になったようだ（長嶋宏之）。

蓮田市西城沼公園 ◇3月11日、ルリビタキ♂若鳥が植え込みを行ったり来たり。近くでシロハラが落ち葉をひっくり返し、アオジがちょろちょろ。樹上でシジュウカラとコゲラの群れが枝移り。3月17日、カシの木にカケスが飛び込んだ。ナラ林でモズが林床に降りては元の枝にもどる。コジュケイ2羽、植え込みの下を駆け抜けた。3月26日、イチヨウの枝にシメ16羽。ルリビタキとシロハラはいつもの場所に。つがいのカルガモが昼寝。側でカワセミが杭の上から飛び込み、雑魚をくわえて上がった。3月28日、ミサゴが飛んできた。ここでは初めて。2羽のキジバトが植え込みの下で大喧嘩。何が気に沿わなかったのだろう。沼の岸辺にゴイサギ成鳥が1羽舞い降りた。ここでは珍しい（長嶋宏之）。

さいたま市見沼区大和田町 ◇3月18日、人家の庭にアトリ約10羽がいた。今季初めて（鈴木紀雄）。

春日部市谷原新田、薄谷 ◇3月18日午後、上空を南南東から北北東へ、アオサギ18羽の群れが雁行飛行隊形にてゆっくりと羽ばたきながら通過した（石川敏男）。

春日部市増田新田 ◇3月19日午後1時33分、自宅近くの安之堀川護岸に、カワセミ3羽がいるのを目撃した。「ツイーリリリー、

ツイーリリリー」と鳴き交わしつつ、水面上を飛んでいた（石川敏男）。

蓮田市黒浜 ◇3月21日午前9時～10時、国立東埼玉病院でシロハラ、アオジ、カケスなど（本多己秀）。

さいたま市見沼区芝川 ◇3月23日、石橋～県道2号線間でカイツブリ夏羽の2羽が「ケレケレケレ」と鳴き合いながら泳ぐ。アオサギ1羽、脚に婚姻色が出ている。嘴の色も濃い。4月1日、ツバメ1羽、今季初認。タカ科不明種1羽、石橋の上空を上流方向へ。上面が赤っぽいのでチョウゲンボウかと思ったが、尾が長くない。サシバだったかもしれない（小林みどり）。

さいたま市北区日進町1丁目 ◇3月24日、マヒワ約30羽とビンズイ3羽が、10m位離れて地面で採餌していた。そこに自転車が通りかかり、マヒワは飛び立ったが、ビンズイは我関せずと採餌を続けていた（森本國夫）。

さいたま市桜区秋ヶ瀬公園 ◇3月28日午前9時過ぎ、ピクニックの森遊歩道脇の池でシマアジ♂1羽を観察。シマアジ♂は、昨年4月9日、秋ヶ瀬公園脇を流れる鴨川の排水機場横の水面でも観察している。その時は、♀3羽（多分）と一緒にだったが、今回は、♂1羽のみ（栗原豊）。◇3月28日、子供の森でトラツグミ1羽、大きなミミズを飲み込んだ。3月31日、ピクニックの森でシマアジ♂夏羽1羽、数日前から滞在している。ヒレンジャク10数羽、シマアジがいる池の対岸でヤナギの新芽を少し食べて飛んだ（海老原美夫）。

松伏町大川戸 ◇3月26日午前6時、自宅前庭でヤツガシラ1羽、土をつつきながら約3分間。初の目撃（会田隆）。

深谷市本田白鳥飛来地 ◇3月27日、亜種キタツメナガセキレイ1羽、茂みで羽繕い。4月2日、オジロトウネン2羽、ここでは比較的観察しやすい。亜種キタツメナガセキレイ1羽（鈴木敬）。

川越市寺尾 ◇3月27日午後3時頃、新河岸川寺尾調整池より500m程下流の川崎橋の付近でヒドリガモの群れの中にヨシガモ♂3羽。♀はよくわからなかったが、1羽

くらはいたと思います。そばにイソシギも（内田耕）。

さいたま市南区白幡沼 ◇3月28日、ハシビロガモ♂1羽♀1羽、キンクロハジロ♂13羽♀9羽、バン3羽。岸辺に立っただけでキンクロ達が近寄ってくる。もう間もなくその姿ともお別れと思うと一寸淋しい（陶山和良）。

さいたま市見沼区加田屋 ◇3月28日、加田屋川にコチドリ7羽。キジの声を2回聞く（小林みどり）。

さいたま市見沼区染谷 ◇3月28日、ヤマガラ1羽、さえずる。メジロ1羽、さえずる。まともな「長兵衛、忠兵衛」は今季初。シロハラ1羽、カシラダカ5羽（小林みどり）。

戸田市彩湖 ◇3月28日、ベニマシコ♀数羽。カンムリカイツブリ夏羽多数。ホオジロガモ♀1羽（海老原美夫）。

さいたま市浦和区岸町6丁目 ◇3月31日、シロハラ1羽、民家の庭で採餌（海老原教子）。

春日部市増田新田 ◇3月31日午前10時15分頃、自宅近くの電線でツバメ1羽。例年、3月20日前後に帰来するのだが、今年は遅れている。ちなみに去年は3月23日が初認日だった。翌4月1日午前11時34分、自宅車庫に出入りする。毎年営巣するので戻ってきた個体と思われる（石川敏男）。

さいたま市見沼区大和田町 ◇4月1日、セブンイレブン付近でツミのひと声。周囲の木立を探すも姿は発見できず（小林みどり）。

鴻巣市大間一丁目 ◇4月1日夕方6時頃、自宅の近所をツバメ1羽飛ぶ。しばし見とれてしまった。今季初認（榎本秀和）。

蓮田市蓮田 ◇4月2日午前8時30分、ケヤキの木でツミ1羽、「ケーケケ……」と鳴いた（本多己秀）。

表紙の写真

タカ目ハヤブサ科ハヤブサ属チョウゲンボウ 巣立ち間もない幼鳥が、土手の杭の上でのんびり人を見ていた。「人が来たら逃げなさい」と母親に叱られ、あわてて飛んだ。

寺添捨男（さいたま市）



行事案内



セッカ幼鳥

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章の担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費：就学前の子無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば双眼鏡などの観察用具も（なくても大丈夫）。解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。

できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

群馬県板倉町・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：7月3日（日）

集合：午前 8 時 15 分、東武日光線板倉東洋大前駅。または午前 8 時 35 分、思い出橋駐車場。

交通：東武日光線新越谷 7:21 → 春日部 7:36 → 栗橋 7:56 → 板倉東洋大前 8:08 着。JR 宇都宮線浦和 6:55 → 大宮 7:03 → 栗橋 7:38 着で東武日光線乗り換え。

解散：午前 11 時 30 分ごろ、谷中湖北ブロック展望塔付近の藤棚。

担当：内田、橋口、玉井、田邊、中里、四分一、植平、茂木、佐藤、進士、山田（東）、佐野、野口（修）

見どころ：アシ焼きがなかった枯れアシ原に、夏の野鳥たちは来ているのでしょうか。

オオヨシキリ、コヨシキリ、セッカ、ヨシゴイ、ササゴイ、カッコウ、コアジサシの 7 種が中心です。雨具と防暑対策はお忘れなく。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：7月10日（日）

集合：午前 9 時 30 分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷 9:09 発、または寄居 8:51 発に乗車。

担当：新井（巖）、森本、大澤、倉崎、高橋（ふ）、千島、鶴飼、藤田（裕）、栗原、飛田

見どころ：鳥たちも暑さにうんざりしているのか、なかなか姿を見せてくれない季節ですが、今年生まれの幼鳥や親子連れを見かけると幸せな気持ちになります。そんな出会いを期待して歩きましょう。照れば暑い大麻生です。飲み物、UV 対策、雨具の用意もお忘れなく。

『しらこぼと』袋づめの会

日時：7月16日（土）午後 3 時～4 時ころ

会場：会事務局 108 号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：7月17日（日）

集合：午前 8 時 15 分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前 9 時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、青木、倉林、渡辺、若林、



5月1日 三宅島探鳥会（宇野澤晃）

小菅、赤堀、新部、増田、宇野澤、須崎、船木、畠山、柴野

見どころ：梅雨明けの暑い季節です。毎月開催する探鳥会の意義を考えることがあります。芝川でオオヨシキリに出会った後の代用水の緑陰は格別です。風に乗って、遠くから響くカッコウの声を聞きに、三室までお出かけください。

滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：7月18日（月・祝）

集合：午前9時45分、森林公園南口前。

交通：東武東上線森林公園駅下車、森林公園南口行き9:23発バスで終点下車。

費用：入園料一般400円（子供80円）、65歳以上200円（年齢を証明できるもの必要）。

担当：中村（豊）、佐久間、内藤、岡安、大坂、青山、高橋（優）、林、藤掛、藤澤、宇野澤、杉原

見どころ：鳥の少ない時季ですが、緑陰の道を歩きながらキツツキやカラ類、エナガなどを探します。林の中ではヤマユリが咲きだし、ニイニイゼミの声しきり。国蝶のオオムラサキもちょうど見られるところです。

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：7月24日（日）

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。

交通：西武新宿線本川越8:44発、所沢8:39発に乗車。

担当：長谷部、藤掛、高草木、中村（祐）、星、石光、山本（真）、久保田、山口、水谷、間正

見どころ：今年もやってきました夏の暑い日の探鳥会。水の流れる音とサギたちの姿に、少しは暑さもやわらぐでしょう。河原を離れて、稲荷山公園に向かい涼しい木陰でカラ類やキツツキの仲間を探します。

初めて「しろこぼと」を手にした方へ

探鳥会というのは、野鳥を中心とした自然好きの人たちが集まり、一緒に野鳥たちを観察しながら歩き、それがいつの間にか自然保護につながる楽しい行事です。

県内40数カ所、県外10数カ所の探鳥地で年間100回以上開催し、延べ人数4,000人以上が参加しています。

探鳥会案内に書いてある集合時刻に集合場所にお集まりください。

「日本野鳥の会埼玉」と書いた青い腕章を付けている人たちが、その日の担当リーダーです。「初めて探鳥会に参加します」と声をかけてください。参加者名簿に名前などを書き、参加費を支払い、チェックリストをお受け取りください。

チェックリストというのは、どういう鳥が出たのかを記録するもので、県内で観察されたすべての鳥をまとめたリストと、その探鳥会で出そうな鳥を書いたリスト、その時によって2種類あります。

担当リーダーの挨拶、注意事項の後、みんなで歩いて探鳥にでかけます。鳥が見えたら、リーダーやベテラン参加者たちが、「入りました」と言います。望遠鏡で鳥が見える状態になったということです。遠慮なく見せてもらいましょう。テレビ画面で見るのとは違う感動がきっと待っています。分らないことは、どんどん質問しましょう。

解散時刻が近くなり、解散場所（集合場所と同じ場合と、違う場合があります）に着いたら、「鳥合わせ」ということをします。その日に観察した鳥の種類をみんなで確認して合せることです。リーダーたちがいろいろな知識を話してくれます。

解散場所が集合場所とは違う場合は、帰りの道順を遠慮なく聞いてください。普通はみんなと一緒に帰ることになりますので、心配いりません。2回、3回と重なると、もうあなたもベテランです。歩きやすい靴や服装で、どうぞご参加ください。

一泊探鳥会などもあります。その詳しいことは2～3ページの特集をごらんください。



行事報告

1月16日(日) 加須市 渡良瀬遊水地

参加: 35名 天気: 晴

カイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ キンクロハジロ ホオジロガモ ミコアイサ カワアイサ ミサゴ トビ ノスリ チュウヒ ハヤブサ ユリカモメ セグロカモメ キジバト カワセミ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ ジョウビタキ ツグミ シジュウカラ ホオジロ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (41種) (番外: ドバト) 直前まで、雪が降っていた。薄っすらと雪化粧の谷中湖へ。今年も干し上げが始まり、水位が下がっている。相変わらず鳥の数が少ない。カンムリカイツブリとミコアイサの白が目立つ。それでも、谷中ブロックに来れば、やはり遊水地。チュウヒをはじめ、ワシタカ類が姿をみせてくれた。小鳥の仲間もチョコチョコと現れた。(内田孝男)

1月29~30日(土~日) 茨城県 平潟港

参加: 22名 天気: 晴

アビ オオハム カイツブリ ハジロカイツブリ アカエリカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ウミウ ヒメウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ オカヨシガモ ヒドリガモ ホシハジロ キンクロハジロ スズガモ クロガモ ビロードキンクロ シノリガモ ウミアイサ ミサゴ トビ オオタカ ハイタカ ノスリ チュウヒ ハヤブサ チョウゲンボウ キジ オオバン シロチドリ タゲリ タシギ ユリカモメ セグロカモメ オオセグロカモメ ワシカモメ シロカモメ ウミネコ ウミスズメ キジバト カワセミ コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ イソヒヨドリ シロハラ ツグミ ウグイス エナガ ヤマガラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒ

ワ マヒワ ベニマシコ ウソ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (74種) (番外: ドバト) 大宮を出発し、銚田市の大竹海岸をめざした。さっそくアビ、オオハムと海鳥をゲット。涸沼ではカモ類のほかタゲリ、タシギをバスの中からゆっくり観察できた。茨城最北の平潟温泉でアンコウ鍋に舌鼓を打ち1泊。翌日、勿来の関公園から沼の内漁港を始めとした漁港をたどりながらシノリガモやクロガモをゆっくり楽しんだ。今回の大地震で、幸いにも平潟の宿は津波の被害を受けなかったが、探鳥を楽しんだ漁港は甚大な被害があった。事情が許せば、来年も探鳥会を実施したい。(橋口長和)

2月11日(金、休) さいたま市 大宮市民の森

雪のため中止。

(青木正俊)

2月12日(土) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

参加: 16名 天気: 曇後雪

カイツブリ カワウ アオサギ マガモ オカヨシガモ オナガガモ ホシハジロ キンクロハジロ キジバト アオゲラ コゲラ ハクセキレイ ビンズイ ヒヨドリ ルリビタキ ジョウビタキ トラツグミ シロハラ ツグミ エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ アオジ アトリ ウソ シメ カケス ハシブトガラス (29種) (番外: ガビチョウ) 前日が雪、当日も曇り空で参加者が少なく、団体入園は出来なかった。スタート間もなくアトリの群れ、トラツグミ、ルリビタキが出現。雪道を避けて舗装道路に変更後、ウソを見た人もいた。山田大沼の下沼に着いたら、雪が降って来たので、中央口の暖房のある多目的ホールを借用し、早めに鳥合わせをした。(藤掛保司)

2月13日(日) 群馬県 小根山森林公園

参加: 30名 天気: 晴

トビ ハイタカ ノスリ クマタカ キジバト アオゲラ コゲラ キセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ミソサザイ カヤクグリ ルリビタキ ジョウビタキ シロハラ ツグミ エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ アトリ カワラヒワ ベニマシコ スズメ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) (番外: ガビチョウ) 横川駅を降りたら昨年同様の銀世界。小

根山森林公園を目指して出発。途中の沢では、少し鳥の姿が少ない様子。やまぶきの郷では、全員で真っ赤なベニマシコを観察。「かわいい」と歓声が上がる。森林公園事務所前で、ミヤマホオジロは残念ながら1人しか確認できなかったが、アオゲラをじっくり観察できた。帰り道、足に餌を持って食べながら飛んでいるトビを見て器用な奴だなと思った。終わってみれば、去年とあまり変わらない33種類。(入山 博)

2月13日(日) 熊谷市 大麻生
参加: 35名 天気: 晴

カイツブリ カワウ カルガモ キンクロハジロ トビ オオタカ ハイタカ ノスリ イカルチドリ キジバト カワセミ アカゲラ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ ミヤマホオジロ アオジ カワラヒワ マヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (37種) (番外: ドバト) 前日来の大雪も止んで穏やかな天気。土手に出ると、遠く秩父連山の奥に八ヶ岳の真っ白な山頂が望めた。しばらく行くと、モズ、シメが次々と見られた。幸運な人はベニマシコも確認できた。ゴルフ場の縁ではハイタカが舞っていた。真っ青な空に真っ白い腹が良く映える。河原に出ると梢に止まっているノスリをじっくり観察。クライマックスは最後に来た。鳥合わせの最中、マヒワ、ルリビタキ、ミヤマホオジロと立て続けに出て、皆大喜び。(中里裕一)

2月13日(日) 所沢市 狭山湖
参加: 18名 天気: 快晴

カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ トモエガモ ホシハジロ キンクロハジロ ホオジロガモ ミサゴ トビ オオタカ ノスリ オオバン キジバト コゲラ キセキレイ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ ルリビタキ ジョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス エナガ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ シメ スズメ ムクドリ ハシブトガラス (41種) (番外: ドバト) 年末に飛来したトモエガモの群れ

(20羽+)が長期滞留していて、ゆっくり観察出来た。このまま当地で越冬し来季以降も渡来してくれると、カンムリカイツブリと並ぶ狭山湖の二枚看板になるのだが……。

「狭山湖の水になじめよ トモエガモ ところ移さず この冬を越せ」 (石光 章)

2月19日(土) 上尾市 丸山公園
参加: 21名 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ マガモ カルガモ コガモ オオタカ ノスリ コジュケイ キジバト アリスイ アオゲラ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (39種) スタート直後シロハラがお出迎え、その後カケスの姿を確認したが園内は静か過ぎた。公園を出て荒川の土手に行く途中の湿地で、シロハラ、アカハラとだんだん乗ってきた。すると「アリスイだ」の声。続いてドラミングの音。皆夢中で探しアオゲラ♀を見つけた。河川敷では、オオタカ、ノスリにも会えた。最高の探鳥会だった。(大坂幸男)

2月19日(土) 『しらこぼと』袋づめの会
ボランティア: 9名

新井浩、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、佐久間博文、志村佐治、武井眺嗣、増尾隆、松村禎夫

2月20日(日) 本庄市 坂東大橋
参加: 19名 天気: 曇

カワウ カイツブリ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ホオジロガモ ミコアイサ カワアイサ トビ ハイタカ ノスリ チョウゲンボウ イカルチドリ シロチドリ キジバト ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ シジュウカラ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (40種) (番外: ドバト) 雲が厚く、寒い朝。まずキセ

キレイとアオジがお出迎え。畑に数羽のシロチドリ、牧草地ではチョウゲンボウが頭上を飛んで鉄塔に止まる。期待のベニマシコの出現で盛り上がり、アシ原ではオオジュリンも確認。河原に出ると、前日の下見では遠くでひとかたまりになっていたカモが目の前に展開。名物のヨシガモはもちろん、前日は見られなかったミコアイサ、カワアイサも出てくれて、カモ類は10種。薄日もさして暖くなった戻り道では再びベニマシコが挨拶してくれて、良い探鳥会になった。(新井 巖)

2月20日(日) さいたま市 三室地区
参加：118名 天気：曇

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ ハシビロガモ オオタカ ハイタカ クイナバン オオバン イソシギ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス(40種)(番外：ドバト) 天候に恵まれて無事300回記念探鳥会が終了。支援いただいた博物館や関係者にお礼を述べ、また現在のリーダーだけでなく、今までのリーダーの努力に感謝した。探鳥会、祝賀式、懇親会も厳粛な中に、楽しく開催した。長く継続出来たのは熱心な参加者のお陰だが、全員が記念品のカワセミの缶バッジに満足していた。これからもよろしく。(楠見邦博)

2月26日(土) 深谷市 仙元山公園
参加：28名 天気：快晴

カワウ ダイサギ コサギ カルガモ トビ ハイタカ コジュケイ キジバト カワセミ アオゲラ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ ビンズイ ヒヨドリ ルリビタキ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ メジロ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(31種)(番外：ドバト) 前日からの強風もほぼ治まり、探鳥日和になった。滝宮神社では下見で数羽見られたマヒワを探すが見当たらず、ツグミ、カワラヒワ、シメ、オナガなどを見て、唐沢川合流点に向かう。コサギ9羽とダイサギ1

羽が土手にしゃがんで待っていてくれた。キセキレイ、カルガモを見ていると、カワセミが目の前の枝に止まってしばらくポーズをとってくれた。仙元山ではシロハラ、ヤマガラ、ビンズイ、ルリビタキを全員で観察。出現鳥は31種とやや低調だったが、気持ちの良い散歩ができた。(新井 巖)

2月26日(土) 志木市 柳瀬川
参加：29名 天気：晴

カワウ コサギ アオサギ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ トビ オオタカ ノスリ チョウゲンボウ キジ イカルチドリ イソシギ タシギ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス(39種)(番外：ドバト) 冷たい北風も間もなく風ぎ、暖くなった。出現鳥も多く、ノスリが小鳥を捕食した姿を全員で観察できた。食後のノスリの近くにキジミが現れ、美しい羽色を見せてくれ、その後タシギ、ヒバリ、タヒバリ等をゆっくり観察しながら探鳥を終了した。鳥合わせの時にチョウゲンボウも現れた。(持丸順彰)

2月27日(日) 群馬県 裏妙義
参加：35名 天気：晴

カワウ アオサギ オシドリ マガモ カルガモ トビ ノスリ クマタカ キジバト コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ カワガラス ミソサザイ カヤクグリ ルリビタキ ジョウビタキ シロハラ ツグミ エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ カワラヒワ マヒワ ウソ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス(35種)(番外：ガビチョウ、ドバト) 駅を出発して、西尾大橋から鳥を探す。「オシドリだ～」との声で少し遠いがみんなで見える。途中の集落では、ルリビタキ等の小鳥を見る事が出来た。浚渫工事の影響か、妙義湖畔には殆ど鳥がいなかった。国民宿舎駐車場のサクラにウソが5羽。その中に真っ赤な亜種アカウソが混じっていて「綺麗！」と歓声が上がる。お目当てのクマタカは、数名しか見る事が出来ず残念だ。(入山 博)



●**県内野鳥チェックリスト 2011 年版作成**

探鳥会などで今まで使っていた県内野鳥リスト 2009 年版が残り少なくなったので、2011 年版を作成しました。

キガシラシトドとズグロチャキンチョウを追加した 325 種のリストです。薄い青色の用紙に印刷した新リストは、白い用紙の旧リストがなくなった探鳥会から、順次切り替えます。

●**大震災野鳥の会義援金と各支部の状況**

本部会員室発行の支部ネット通信 4 月号と 5 月号によれば、野鳥の会義援金は埼玉の 100,000 円に続いて、京都 100,000 円、ひょうご 200,000 円、徳島県支部 100,000 円、九州沖縄ブロック 31,600 円、滝川支部 31,500 円など、5 月 18 日までに 1,152,692 円が集まりました。

会員室職員は被害支部の直接訪問もはじめています。

北上支部 陸前高田の会員で、なくなられた方 1 名、不明の方 1 名。

みやこ支部 支部顧問遠藤公男氏がすべての会員の安否を訪ね歩いた。勤め先が大破したり、避難所で暮らす人たちも。

宮城県支部 約 50 名の支部幹事の安否確認はとれたが、会員が 500 名と多いため、全容の把握に苦労している。

引き続き、福島市、南相馬市、郡山市、いわき市の支部を訪ねる予定とのことです。

●**論文集『ストリクス (Strix) vol. 27』発行**

会員たちの野外鳥類学論文集『Strix』は、2008 年発行第 26 巻のあと長らく休刊となっ

ていましたが、本年 5 月 10 日、第 27 巻が発行されました。

関東ブロック各支部の協力を得て当会研究部が実施したシラコバト調査結果の報告「2008 年度関東地方におけるシラコバトの個体数と個体数密度～小荷田行男ほか」も掲載されています。B5 版 180 ページ。定価 3,570 円(税込み)。

●**会員数は**

6 月 1 日現在 1,988 人。

活動と予定

5 月 14 日(土) 6 月号校正(海老原美夫・大坂幸男・小林みどり・志村佐治・長嶋宏之・藤掛保司・山田義郎)。

5 月 15 日(日) 役員会(司会:橋口長和、各部の報告・事業報告の作成・その他)。

5 月 23 日(月)「埼玉会報だけの会員」に向け 6 月号を発送(倉林宗太郎)。

●**7 月の予定**

7 月 2 日(土) 編集部・普及部・研究部会。

7 月 9 日(土) 8 月号校正(午後 4 時から)。

7 月 16 日(土) 袋づめの会(午後 3 時から)。

7 月 17 日(日) 役員会(午後 4 時から)。

編集後記

今号編集部会議の 6 月 4 日(土)当日に出発して、校正の日の翌 12 日(日)に帰国する予定。各探鳥会担当の皆さん、各欄原稿取りまとめ担当の皆さん、校正担当の皆さんにお願いして、少し早めに原稿を送ってもらったり、いろいろご迷惑をおかけしています。

あとは全部 Y 編集部長と皆さんにお任せしますのでよろしく〜と、「編集前記」を書き残して、出かけます。仲間というのはありがたい。(海)

しらこぼと 2011 年 7 月号(第 327 号) 定価 200 円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉 郵便振替 00190-3-121130
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田 3 丁目 9 番 23 号 丸和ビル
 日本野鳥の会 会員室 TEL 03-5436-2630 FAX 03-5436-2635 gyomu@wbsj.org
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社